第５７回　ヴェネツィア・ビエンナーレ　日本館　企画提案書

崔 敬華（東京都現代美術館学芸員）

寄留者たち｜*Sojourners*

１．基本構想

現代美術を通しての今日的な考察や視座が、日本館を訪れる観客それぞれの問題意識につながるような展示を目指し、私は美術家・映画監督である藤井光と展示案を考案した。藤井は主に映像を用いて、現代社会を形成する言説や現象を様々な角度から検証する。「ASAHIZA 人間は、どこへ行く」「プロジェクトFUKUSHIMA！」「沿岸部風景記録」等の作品では、震災や原発事故という大きな危機に対峙せざるを得ない人々の現実に、芸術がいかに関われるかを模索しながら、人々の認識に批評的に切り込む表現を生み出してきた。本展示案は、原発事故がもたらした時空間の断絶が流動させる歴史と記憶を巡る言説を考察するものである。

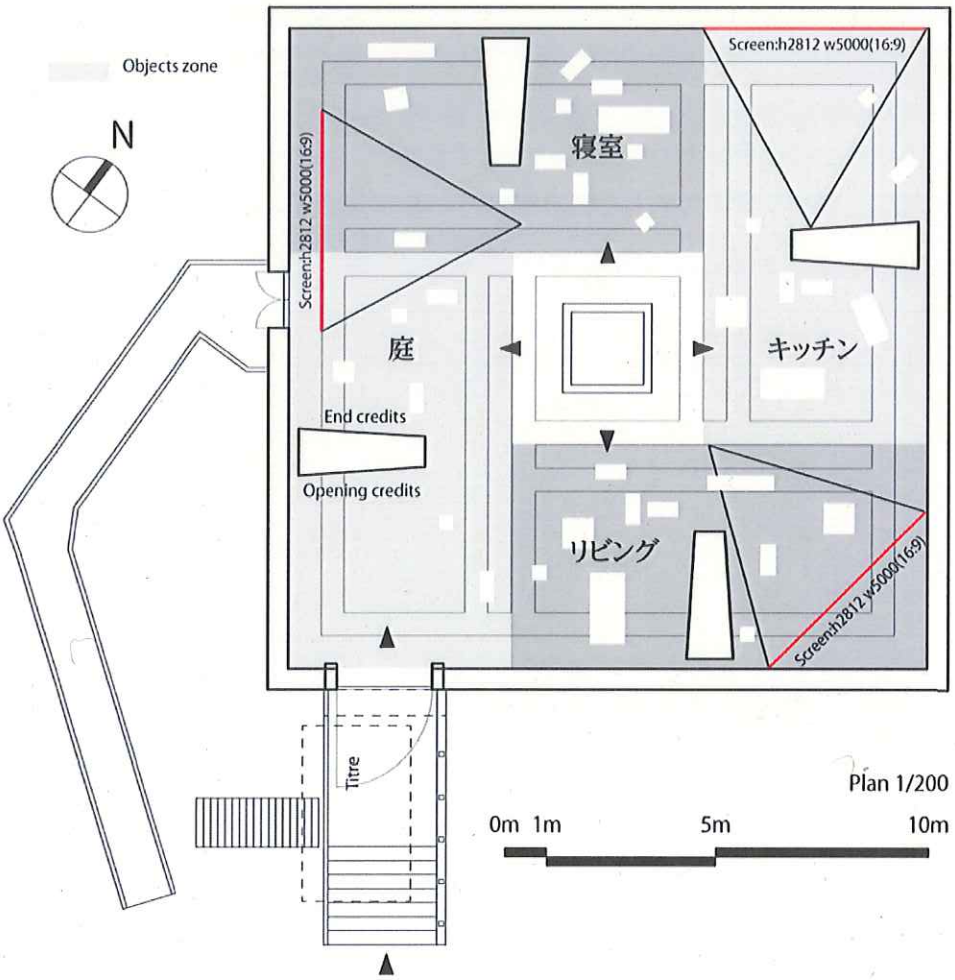
2016年現在、帰宅困難区域および居住制限区域に指定されている、福島県双葉郡の双葉町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館、富岡町歴史民俗資料館の所蔵品は、様々なイニシアティブによって段階的に救出された。3000箱にのぼる民具、文書、土器といった民俗学的・考古学的史料は、福島県文化財センター白河館に一時的に保管されている。これらがいつ、どこへ行きつくのかは決まっていない。寄留者となったありとあらゆる「もの」は、リニアな歴史の文脈から引き剥がされ、意味が変化してゆく。または意味を失ってしまう。

藤井は、これらの史料の救出に関わってきた人々の協力を得て行う聞き取りやディスカッションを基に、フィクショナルかつ複層的な物語を構想した。１本の映画にもなる３チャンネルの映像では、展示物が運び出された帰宅困難地区の博物館を、さまざまな寄留者たちが訪れ、対話を重ねる。言説の主体が不在となった展示室を案内人と共に巡りながら、過去や未来、もしくは現在存在し得た人々の営みや記憶について語る。

日本館展示室内は、その建築構造と呼応するようにゆるやかに区切られ、現代のドメスティックな空間を象徴する３つの部屋となる。かつての住人が去った長い時間を思わせるその空間は、映画撮影のために設けられたセットのようでもあり、民俗博物館の展示のようでもある。観客は、どこか埃っぽく傷んだ「もの」で満たされた部屋に足を踏み入れる寄留者となるだろう。彼らはまた、歴史を失った博物館を歩く寄留者たちと映像を介して出会うことになる。展示空間における観客の経験は、映像世界との接続と断絶をくり返しながら、歴史と記憶の意味の拡張や新たな創造可能性についての思索を促す。

２．展示プラン

展示物は観客の身体や目線を制御し、全てを見渡すことを阻むように配置展開される。



３．制作協力者（2016年５月現在）

川延安直（福島県立博物館　学芸員）

本間宏　（福島県文化財センター白河館　学芸課長）

阿部浩一（福島大学教授）

伊藤匡　（福島県立美術館　学芸課長）

甲斐賢治（せんだいメディアテーク　アーティスティック・ディレクター）

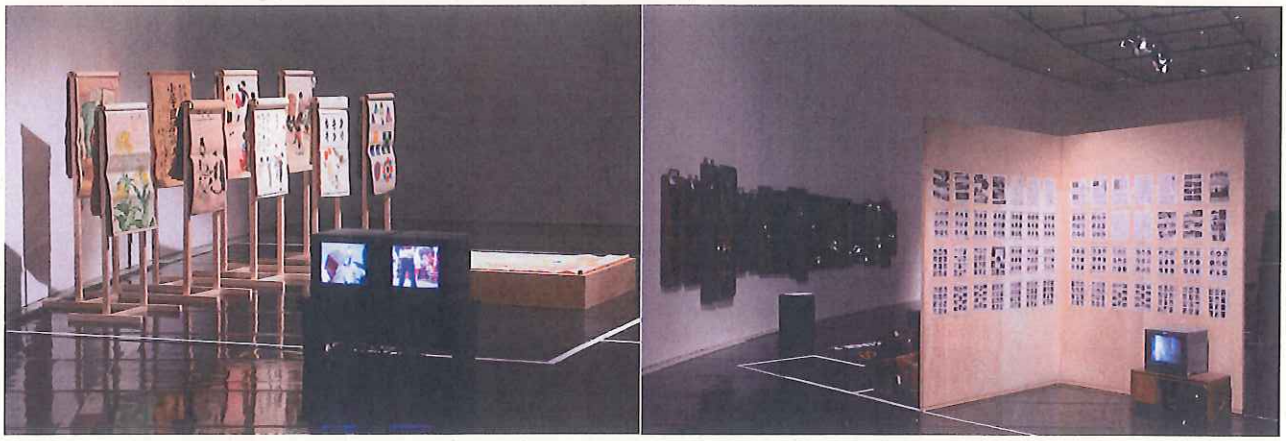
佐藤泰　（せんだいメディアテーク　元副館長）

４．出品作家について

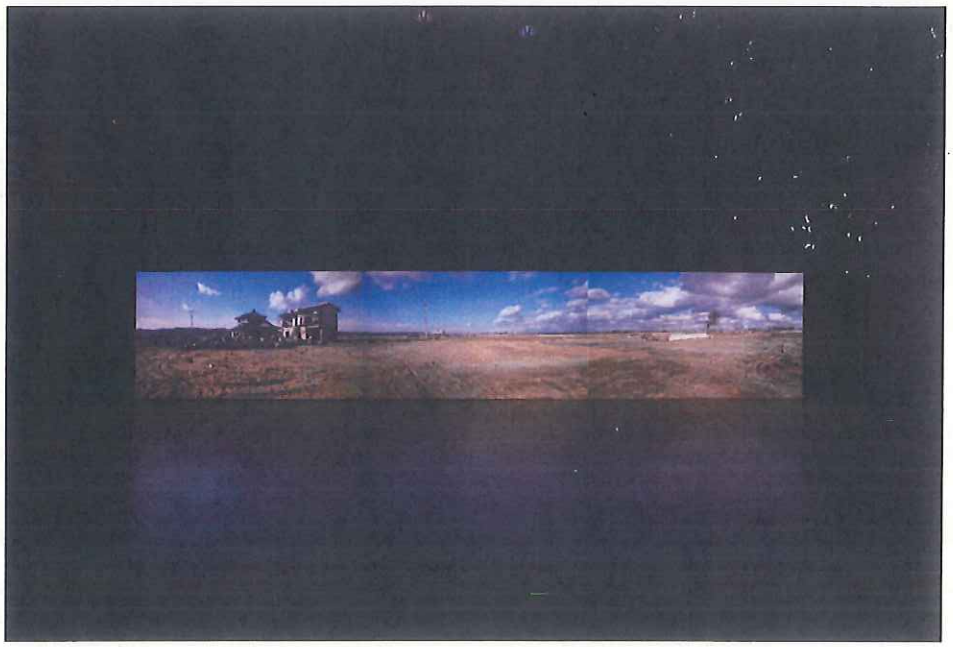
藤井光	1976	東京都生まれ
	2002	パリ国立高等装飾美術学校卒業
	2004	パリ第８大学美学・芸術第三期博士課程 DEA 卒業
主な個展	2015	「歴史の構築は無名のものたちの記憶に捧げられる」青森公立大学国際芸術センター（青森）
主な映画監督作品	2013	「ASAHIZA 人間は、どこへ行く」（ASAHIZA 製作委員会）
	2012	「プロジェクト FUKUSHIMA!」（PROJECT FUKUSHIMA 製作委員会）
ディレクション	2015	「饗宴のあと」東京都庭園美術館（東京）
	2011	「自分たちのメディアを創る映像祭」山口情報芸術センター（山口）
主なグループ展	2016	「六本木クロッシング　僕の身体、あなたの声」森美術館（東京）
		「MOT アニュアル　キセイノセイキ」東京都現代美術館（東京）
	2014	「記憶と想起」せんだいメディアテーク（仙台）
		「ジャパン・シンドローム」ベルリン HAU（ベルリン）
		「白川昌生　ダダ、ダダ、ダ」アーツ前橋（群馬）
		「地震のあとで―東北を思うⅢ」東京国立近代美術館（東京）
		「Tomorrow Comes Today 」国立台湾美術館（台湾）
	2013	「3.11 とアーティスト｜進行形の記録」水戸芸術館（茨城）
	2012	「水と土の芸術祭」万代島旧水揚場ほか（新潟）
		「Public Discourse Sphere: Aftereffects of Neo-liberalism」Loop（ソウル）
主な上映	2016	「熱蔗」Rooftop Institute（香港）
		「Seoul Independent Documentary Film & Video Festival」ロッテシネマ（ソウル）
	2015	ジャパン・ソサエティ（ニューヨーク）
		全美戯院（台湾）
		アンスティチュ・フランセ日本（東京）
	2014	ユーロスペース（東京）
		メゾンエルメス ル・ステュディオ（東京）
		Cafe OTO（ロンドン）
	2013	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013（山形）
		Four Corners（ロンドン）
	2012	渋谷 UPLINK（東京）
レジデンス	2015	韓国国立美術館レジデンシー・プログラム（ソウル）
	2013	Art Action UK(ロンドン)
	2005	アーカス・プロジェクト（茨城）

5．参考作品図版

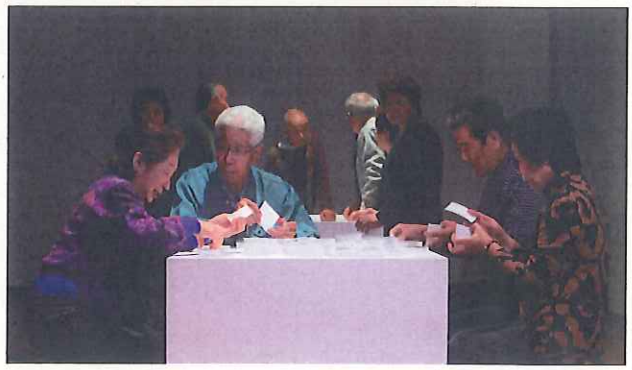
「ASAHIZA 人間は、どこへ行く」2013 年｜映像スチル



「歴史の構築は無名のものたちの記憶に捧げられる」2015 年｜青森公立大学国際芸術センターでの展示風景　　撮影：小山田邦哉



《沿岸部風景記録》2014 年｜せんだいメディアテークでの展示風景　撮影：越後谷出



《爆撃の記録》2016 年｜東京都現代美術館での展示風景（上／撮影：椎木静寧）と映像スチル（下）

《帝国の教育制度》2015 年｜映像スチル

6．予算概算

会場維持費	10,000,000 円
作品制作費	8,000,000 円
作品輸送費	3,000,000 円
機材費	5,000,000 円
会場施工／撤去費	9,000,000 円
広報／広報印刷費	2,000,000 円
旅費	2,200,000 円
謝金	800,000 円
合計	40,000,000 円